

# 柳田の経世済民 谷川健一×小熊英二 の志はどこにいったのか



おくま・えいじ 慶應義塾大学助教授  
(近代史・社会学)。1962年東京生まれ。著書に『単一民族神話の起源』(サン  
トリイ学芸賞受賞)、『日本人』の境界  
『インド日記』(民主)と(愛国)、『ナ  
シヨナリテイの脱構築』(共著)ほか。

たにがわ・けんいち 日本地名研究所  
所長。民俗学者。1921年熊本県生まれ。著書に『青銅の神の足跡』『白鳥伝  
説』『南島文学発生論』『魔の系譜』『日本  
の地名』『神に追われて』ほか。南方熊楠  
賞・芸術選奨文部大臣賞受賞。



日本民俗学の最後の巨人谷川健一に  
新著『〈民主〉と〈愛国〉』で戦後思想に  
鋭く斬り込む小熊英二がせまる。

小熊 私は民俗学者ではありませんが、今日は日本にお  
いて民俗学とはどういうものであったのか、そしてこれか  
らどういふものであればいいのかを探っていければと思い  
ます。そのことは、今後の日本を考える上でも重要でし  
ょう。

そこで、谷川さんにとって民俗学とは何であったのかを  
お聞きしながら、第二次世界大戦後の民俗学について考え  
てみたいと思います。もちろん戦後の民俗学を谷川さんが  
すべて代表しているわけではありませんが、そこを切り口  
にして考えてみたいのですね。

ではまず谷川さん、ストレートにお聞きします。戦争中  
はどこにおられましたか。

谷川 戦争中は結核で療養所にいたんです。

小熊 それでは、兵役には就かなかつたわけですね。しか  
し当時の結核は、今でいえばエイズに相当するような、死  
を意味する病です。

谷川 当時の私は、カトリックに入れこんでいて、愛読